

# やまなし

2009.7.1  
vol.7

no. 1

## contents

- 2 本に囲まれる
- 4 利用者の声
- 5 学生にすすめる本
- 6 図書館統計
- 7 図書館トピックス

「山梨大学学術リポジトリ」正式公開

新データベース導入

講演会

「甲府ごぜと越後ごぜを語る」を開催

— ごぜ唄演奏を交えて —

- 8 今後のイベント紹介

The Yamanashi  
Bulletin of the University of Yamanashi Library

# 本に囲まれる

イケダ ナオタカ

附属図書館長 池田 尚隆

幸運なことに、本に関して得難い経験をしています。

大学院生のとき、夏秋それぞれ一週間、恩師が開講する公開講座に参加するため、今は無くなった京都の平安博物館に通いました。そこには『源氏物語』の最良の写本とされる大島本が所蔵されていました。国の重要文化財です。一部が交代でケースの中に陳列されるのですが、講座の合間にガラスにへばりついて見ている私に、当時平安博物館に勤めていらっしやった臈谷寿先生が、「池田君、さわってみるか」と言って、鍵を開け、手渡してくれました。あの青表紙の堂々とした写本、和本ですから重いはずはないのですが、手にずしりと重みを感じ、恐ろしくて、せっかくの機会なのに早々にお返ししました。

やはり京都の講座に通っていた時です。この講座は『御堂関白記』を読むための集まりでした。『御堂関白記』、御存じでしょうか。平安時代最大の政治家藤原道長の日記です。何とあの「この世をば」の藤原道長が日記を書いていたのです。そして驚くべきことに道長自筆の日記が千年の時を経て、残っているのです。もちろん国宝中の国宝で、道長の直系である近衛家の文化財を保管する陽明文庫に収められています。

ある日、どうしてもうまく読めない箇所があり、原本を見たいという話になりました。陽明文庫の文庫長である名和修先生が講座に参加されていたこともあって、その日の午後、何人かで陽明文庫を訪ねました。『御堂関白記』自筆本、それはそれはきれいな本です。子孫達によってよほど大切にされてきたのでしょう。そして、道長の字は当然です

が、縦三十センチ、全長は十メートルを超える具注暦（当時の暦で、半年で一巻の卷子本です。一日ごとに数行分の空白があり、そこに日記を書いたのです）の圧倒的な存在感、本当に後光が差していました。その『御堂関白記』を名和先生が見事な手さばきで繰り出し、巻き取られます。まさに国宝を守る手であり、それ自体が感動ものでした。

ところが、数年後、私が名和先生の役目をすることとなります。大学の助手になったのですが、研究室には古い文献がたくさんありました。なかでも一六四九年に住吉如慶・具慶によって描かれた『竹取物語絵巻』三巻は、数少ない『竹取物語』の絵巻で保存状態もすばらしく、中学の教科書に写真が出ているくらいの本でした。これを見に来られる人が多いわけです。勝手に触ってもらうわけにはいきませんので、助手が巻き出して見せることとなります。絵の表面をこすって傷付けたら大変ですから、毎回、名和先生の手さばきを思い浮かべながら、冷や汗混じりでお見せしていました。

このような経験をありがたがるのは、私が平安時代の文学を専門にしているためであり、一般的ではないかもしれません。一方で、近年の

電子資料の  
利便性もよ  
くわかりま  
す。大学や  
文庫が所蔵  
する貴重な  
写本の写真  
をインター



ネットで簡単に見ることができる、キーボードを叩くと、ある語の『源氏物語』中の用例が瞬時に出てくる等々、ちょっと前には考えられなかった便利な道具が国文学の世界にまで広がってきています。本の価値はまずはそれが含み持つ情報にある、それはその通りです。しかし、本として存在すること自体の価値もあると思うのです。国宝や重文でなくとも、本の姿、匂い、重みが与える魅力、そしてそういう一冊一冊がずらりと並んだ書店や図書館の魅力にひかれる人は多いはずです。

先日、ゼミで『源氏物語』桐壺巻を読んでいた。「あいなし」という解釈の難しい言葉があり、本居宣長が『玉の小櫛』に次のように書いていました。「此詞数もなく多く有、そをことごとく見わたし合せて、かむがふるに、何といふわきまへもなしに、うちつけに物すること也、こゝもその意にて、おのが身にかゝらぬ人までも、何といふことなしに、目をそばむる也、注に、無愛也、あぢきなく也などいへる、皆かなはず」。基本的にこの宣長の解釈は現在も通用するものです。それは「ことごとく見わたし合せて、かむがふるに」とあるように、きちんと『源氏物語』中の用例を踏まえた言だからです。

それにしてもどうやって用例を調べたのでしょうか。当時はコンピュータはもちろん、公刊された索引もありません。カードの類は使っていたかもしれませんが、宣長の膨大な仕事量から考えると、完全な索引を自作する余裕はなかったでしょう。結局は印象的な言葉をその都度、一つ一つ頭に叩き込んでいった結果としか考えられません。頁を繰り、写本や刊本の一頁一頁を見、記憶するという古

典的な方法の途方もない積み重ねが、宣長の自信を生んでいるのだと思います。



す。その際、本の色や匂い、あるいは感触までもが記憶に働きかけるということは、我々も多かれ少なかれ経験しているところです。本には、電子資料とは異なる力があります。人間の身体と頭が、物としての本と一体となったところから生み出される成果も、決して小さくはないと思います。

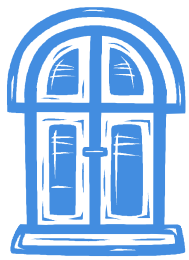
山梨大学附属図書館は、現代の図書館として電子情報の拠点となっています。それはとても大事なことで、館員皆の誇りでもあります。六月一日には学術リポジトリの正式公開も始まりました。山梨大学の教育研究成果を地域、世界へ発信する態勢が整ったわけです。先生方の積極的な参加、すなわち研究成果の御提供をお願いします。理系中心のように考えられていますが、先行する大学では意外に文系の論文へのアクセスが多いそうです。文系の先生方にとっても「使える道具」です。

電子ジャーナルやデータベースも含め、電子情報の充実が図書館の重要な任務と考えています。しかし、同時に物としての本に囲まれ、楽しみと刺激を受ける場であることも忘れてたくはありません。両者をいわば車の両輪として図書館を充実していければと思います。来館をお待ちしています。

### 図書館を通して知る扉の向こうにある世界

教育人間科学部 キムラ  
保健体育講座 舞踊 木村はるみ

そもそも実技系なので本とはあまり縁のない世界に住む人間であるが、実は最近、図書館に行くのが楽しみになって来た。ひと昔前であれば専門家しか知る事のなかったような事柄が、検索で一瞬に目の前に現れるようになり、現地に足を運ばなければ見ることもできなかった資料を数日で手にできる。図書館は、自分と知識の間にあった大きな壁にひとつの扉を開いてくれた。



実は専門外の書架を歩く事にいささか抵抗があったし、とにかく出向く余裕がない。歩く、見つける、手に取る行為と、PCの画面で検索する行為は、まったく異なる活動であり、自分と知識との身体的関係が違う。ヴァーチャルな知識の世界と実際に手に取る文献との出会い、ここに似て非なる自分と知識の二つの関係がある。この自分の内と外をつなぐのが図書館となって来た。図書館の方から、希望図書への到着や古書価格などのメールによるコミュニケーションがあることも大きな励みとなっている。以前であれば諦めていた資料も、諦めなくなった。ここには検索のプロフェッショナルがいる。希望の資料がないのではなく、探さなかっただけ、探せなかっただけ。

図書館に行けば、どうにか知識に辿り着けるのだと力強い味方を得たような気がしている。必要な知識は、自分を変容させるし、さらに次の課題への扉を開いてくれる。私にとって図書館は、自分を変えてくれる場所になった。いつもありがとうございます。

### これからの医学部図書館に求めること

クロダ サトシ  
医学部 医学科 5年 黒田 諭

今回「利用者の声」を書く機会を与えていただいた。せっかくの機会なので日ごろ医学部図書館を利用している学生として思うところを忌憚なく述べたいと思う。

医学雑誌が電子ジャーナルへと移行していく現在、書籍の役割は小さくなってきているという意見もある。しかし医学生にとってやはり書籍は最も重要な情報源である。特に学生自らが学習することを求められる昨今、図書館の役割はむしろますます大きくなってきているといっても過言ではない。

ところが、図書館の本棚はどうだろう。今や標準的な治療といえなくなった医学書が多くを占め、最新の書籍は少ない。また、一般教養が甲府キャンパスに移されてから久しいが、未だに一般教養書が多くを占めている。

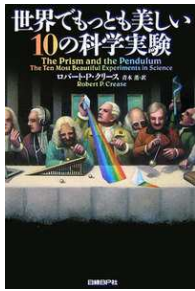
さらに、図書館は勉強スペースの提供という重要な役割も担っているが、例年、国試前には勉強場所の確保が困難なことは承知のとおりである。



つまり、現在の医学部図書館は最新書籍の不足と勉強スペースの不足という二つの大きな問題を抱えている。特に近年、医学部定員が大幅に増員されており、書籍や学習スペースの不足が拡大することは明らかである。

この際、時代遅れの医学書や一般教養書は思い切って処分し、そのスペースを新しい医学書の購入や学生の学習スペースに振り向けてはどうだろうか。医学教育に特化した図書館として生まれ変わることが、限られた場所と予算を有効に生かすことになるのだ。

## 『世界でもっとも美しい 10の科学実験』



ロバート・P・クリース 著  
青木薫 訳  
日経BP社

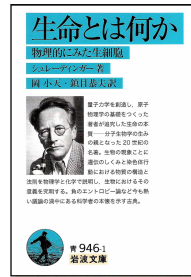
工学部 機械システム工学科  
ホンダ ケン  
本田 建

この本は著者が2002年に「フィジクス・ワールド」誌上で「もっとも美しい科学実験」について行ったアンケート調査から生まれたものを、1冊の本としてまとめたものの訳本で、約3年前に発行されたものです。アンケートで寄せられた300以上の実験の中から、もっとも多く名前の挙がった10の実験を選んでその詳細について解説したものです。

古くは紀元前3世紀の地球の外周の長さの測定から始まって、ガリレオによる自由落下の実験、斜面の実験、ニュートンによるプリズムの分光実験、キャヴェンディッシュによる地球の重さを測る実験、光が波であることを証明したヤングの干渉実験、地球が自転している証拠を明らかにしたフーコーの振り子実験、初めて電子を見たミリカンの油滴実験、原子核を発見したラザフォードの散乱実験、最後に量子力学の核心にある現象である1個の電子干渉を明らかにした実験について、その時代背景も含めて実験の苦労や問題点をいかに克服して行ったかが詳細に書かれています。

特に、フーコーの振り子で「振り子が地球の重力場の中で回転している」のか「われわれの足下で地球が回転している」のかの経験は、私自身の小学生のときの経験を思い出しました。将来、実験を考案することになる皆さんや、現在実験に携わっている我々にとっても為になることが多く描かれており、大いに参考になると思います。誰でもが納得するような美しい実験を一生に一度はしたいものです。

## 『生命とは何か』



E・シュレーディンガー 著  
岡小天・鎮目恭夫 訳  
岩波書店

医学部 解剖学講座分子組織学教室  
タイラ タカヒロ  
平 敬宏

私は幼い頃から山野を駆け回り、生物標本作成を趣味とした。そのため、生物に興味を持ち、理学部生物学科で生物学を修める事になった。大学3年になり卒業研究課題選択の時期になっていた。元来生物に興味があったので、分類学・生態学など生物個体を研究対象とするつもりでいたが、当時勃興し始めた分子生物学に触れてみたい願望もあった。そのような時、本書を目にした。本書は、量子物理学の泰斗シュレーディンガーが、1944年に物理学者の目から捉えた生命現象を、一般聴衆に向け数式抜きに講演したものである。冒頭で、著者は物理学者でありながら、あえて数式を用いず講演したのは、「生命現象があまりにも複雑で、十分数学を使えなかったからです」と述べ、講演意図が「物理学者と生物学者との間で宙に迷っている基礎的な観念を、物理学者と生物学者との双方に対して明らかにする事にある」と結んでいる。それまで、物理学と生物学は相反する研究領域と考えがちであった私に大きな衝撃を与えた。1944年当時、ここまで明解に生命現象を説明したシュレーディンガーの碩学ぶりがうかがえる。

本書(岩波新書青版)は長らく絶版であった。しかしながら、60年以上を経てもその魅力は失せる事なく、2008年岩波文庫として再版された。毎年新入生に、この書の一読を勧めているが、はたして私が20歳の時に受けた感銘が同じ様に伝わっているかが、毎年気になっている。

### 所蔵案内

『世界でもっとも美しい10の科学実験』  
本館2階 一般書架  
分類：402.8

『生命とは何か』  
本館2階 文庫新書書架  
医学分館2階 第3閲覧室  
分類：467/SEI

## 1 図書館利用統計(H20年度)

### (1)開館日数・入館者数

区分	開館日数	入館者数(人)		
		学内者	学外者	合計
本館	271日	117,688	1,962	119,650
分館	288日	133,641	583	134,224

### (2)館外貸出冊数・参考調査取扱件数

区分	館外貸出冊数(冊)				参考調査
	学生	教職員	学外者	合計	件数
本館	23,404	1,866	908	26,178	3,538
分館	12,647	2,646	469	15,762	3,252

### (3)相互利用

区分	貸借(単位:冊)		文献複写(単位:件)	
	貸出	借受	受付	依頼
本館	225	453	2,754	2,220
分館	134	60	3,767	3,728
合計	359	513	6,521	5,948

### (4)子ども図書室

開館日数	127日
入室者数	2,338人
貸出券発行人数	115人
蔵書冊数	3,629冊
貸出冊数	3,148冊

## 2 図書館蔵書統計

### (1)図書・雑誌蔵書数(H21.3.31現在)

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)		
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
本館	364,634	132,989	497,623	7,007	2,257	9,264
分館	58,707	50,075	108,782	2,281	1,349	3,630
合計	423,341	183,064	606,405	9,288	3,606	12,894

### (2)図書・雑誌受入数(H20年度)

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)		
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
本館	8,109	1,301	9,410	2,568	245	2,813
分館	2,294	582	2,876	578	174	752
合計	10,403	1,883	12,286	3,146	419	3,565

## 3 電子ジャーナル統計

電子ジャーナル(2008/1~2008/12) fulltext ダウンロード件数

Science Direct	80,084	Karger	1,509
Nature Group	11,775	Science	3,638
Wiley InterScience	9,261	Oxford University Press	4,274
Blackwell Synergy(16タイトル)	962		

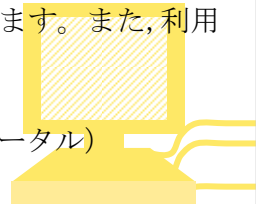
## 「山梨大学学術リポジトリ」正式公開しました

「山梨大学学術リポジトリ」 <http://www.lib.yamanashi.ac.jp/repository/> は、山梨大学が生産した教育研究成果（学術論文など）をインターネット上の電子書庫に収集・蓄積してインターネットを通して無料で全文データを公開するものです。平成21年3月から試験公開をしていましたが、平成21年6月1日をもって、正式に公開しました。

従来から附属図書館HPより提供していた山梨大学学内刊行物（研究報告等）もこのシステムから利用できます。研究者の皆様には教育研究成果物のご提供をお願いするとともに、今後、学術論文等の公表ツール、セルフアーカイブとしての利用、論文の参照回数の向上にもお役立ていただけます。また、利用者の皆様には、是非利用していただき、ご意見、ご感想をお願いいたします。

✉ [repository@yamanashi.ac.jp](mailto:repository@yamanashi.ac.jp)

なお、本学を含め他大学等も横断的に検索できるJAIRO（学術機関リポジトリポータル）  
<http://jairo.nii.ac.jp/> もお試しください。



## 新データベースを導入しました ほか

平成21年4月から、下記のデータベースが追加・変更になりました。

### ◆ 理科年表プレミアム

国立天文台が編纂する「理科年表」のWEB版です。1925（大正14）年の創刊号から最新年度版に掲載された理科年表のデータが一度に閲覧・検索でき、また出力して加工することも可能です。

### ◆ JapanKnowledge（ジャパナレッジ）のリニューアル

日本大百科全書や東洋文庫など約20のコンテンツを一括で検索できる知識探索サイトです。新たに字通がコンテンツに加わったほか、検索画面も新しくリニューアルされました。



## 山梨大学附属図書館講演会

### 「甲府ごぜと越後ごぜを語る—ごぜ唄演奏を交えて—」を開催

附属図書館では、平成21年3月14日（土）、山梨大学赤レンガ館において、講演会「甲府ごぜと越後ごぜを語る—ごぜ唄演奏を交えて—」を開催しました。

講演会では、本学教育人間科学部生涯学習講座教授ジェラルド・グローマー先生による講演と越後ごぜ唄伝承者 萱森（かやもり）直子氏をお招きしてごぜ唄の演奏を行っていただきました。



グローマー先生には「ごぜ」に関する各時代背景も含めたお話を、萱森氏にはごぜ唄「巡礼おつる」等を披露していただきました。

小雨の降る中にも関わらず約45名の方が参加され、ごぜ唄の独特の節回しに来場された方々は深く聞き入り、また、参加者からの質問を通じて、国内だけではなく海外の民謡等とごぜ唄との旋律の共通点などにも話がおよび、楽しんでいただきました。

## ● 連続講座 ●

平成21年度山梨県・山梨大学連携事業

「子どもと本を楽しむ・連続講座」(全5回)のご案内

子ども図書室では、山梨県と山梨大学の連携事業の一環として、山梨県教育委員会と山梨大学の共同企画により、「子どもと本を楽しむ・連続講座」(全5回)を開催します。子どもと本・読書に関わる諸テーマで講演・ワークショップを行う予定です。参加申し込みは各回行います。

### 第1回 講座「木の枝が揺れるから、風が吹く!?!-子どもの本音を活かした科学読み物-」

日時: 6月25日(木) 午後2時~4時 **終了しました**

講師: 松森 靖夫 氏 (山梨大学教育人間科学部教授)

**\*事前に申込が必要です。**

### 第2回 講座「声と表現のセミナー イメージを声にのせて」

日時: 7月30日(木) 午後2時~(終了予定4時)

場所: 笛吹市石和図書館 視聴覚ホール

講師: 宮崎さなゑ 氏 (スタジオ・声と表現 主宰)

### お申込み・お問合わせ先

山梨県教育委員会 社会教育課  
社会教育振興担当

〒400-8504

甲府市丸の内一丁目6-1

TEL 055-223-1771 FAX 055-223-1775

Email:shakaikyo@pref.yamanashi.lg.jp

### 第3回 「読み聞かせと朗読(仮)」

日時: 8月20日(木) 午後2時~(終了予定4時)

場所: 山梨大学

講師: (読み聞かせ) 湯沢 朱実 氏, (朗読) 渡邊 昌恵 氏

### 第4回 講座「科学と読書(仮)」

日時: 11月19日(木) 午後2時~(終了予定4時)

講師: 池田 清彦 氏 (早稲田大学国際教養学術院教授)

### 第5回 未定

主催: 山梨県教育委員会

山梨大学附属図書館子ども図書室

## ● 講演会 ●

山梨大学附属図書館医学分館主催

「生と死のコーナー」関連行事 講演会

医学分館では、「生と死のコーナー」関連行事として、平成21年度は斎藤武氏を講師にお招きし、下記日程で講演会を開催します。医療従事者の視点だけでなく、これまでの経験を踏まえた患者サイドの視点からのお話も期待できますので、皆様のご参加をお待ちします。

講師: 斎藤 武 氏 (山梨英和・韮崎英和・石和英和幼稚園園長)

日時: 平成21年10月8日(木) 18時30分~20時(予定)

斎藤 武 先生の略歴

1974年 エモリー大学神学部修士課程修了

1976年 スタンフォード大学病院チャプレン, ミネソタ大学病院チャプレンおよびスーパーバイザーとして活躍

1985年 ライフプランニングセンターのピースハウス・ホスピス準備室長

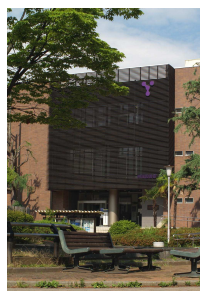
1992年~2008年3月 東京女子医科大学糖尿病センター非常勤講師, チャプレンとして従事

現在, 山梨英和・韮崎英和・石和英和幼稚園園長。山梨英和大学講師。

◆イベント詳細については、ポスター・パンフレット・山梨大学附属図書館ホームページ等でお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしています。

## 学外の方への利用案内

本館及び医学分館は、山梨大学以外の大学生をはじめ一般の方々も利用できます。詳細については、<http://www.lib.yamanashi.ac.jp/>をご覧ください。本館 Tel:055-220-8066 (情報サービスグループ)、医学分館 Tel:055-273-9357(医学情報グループ)にお問い合わせください。



山梨大学附属図書館報  
「やまなし」  
第7巻第1号

2009年7月1日 発行

編集: 館報編集委員会

発行: 山梨大学附属図書館

〒400-8510

甲府市武田四丁目4-37

TEL 055-220-8063

● 表紙撮影: 図書・情報課 総務グループ職員 嶋 幸司  
場 所: 山梨大学附属図書館 本館 (甲府キャンパス)